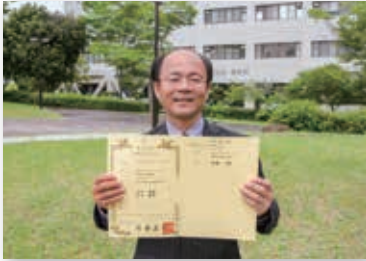


**山口忠承准教授が
特許を取得**

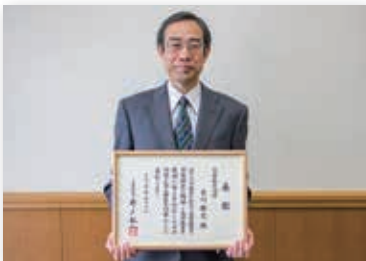
平成26(2014)年に学校法人立教学院の入江正浩教授、(株)KANKOの高島一郎さんと共同出願した「放射線線量の測定方法およびその線量計」が特許を取得。放射線の一種のガンマ線を、蛍光発光を利用して人間の致死量以下の感度で検出でき、安全な放射線の管理に役立つことが期待される。



もり やまじゅん
森山潤
授業実践開発コース教授

**古川教授が
兵庫県功労者表彰を受賞**

古川雅文教授が兵庫県功労者表彰(学術教育功労)を受けた。長年にわたる大学運営と学術研究に精励し大学教育の振興に尽くした功績がたたえられたもの。古川教授は「県の教育関係者、本学の学生の皆さんから多くの学びを得たこと、地道な活動を表彰していただいたことに感謝します」と喜びを語った。



キャンパストピックス



なぜ、プログラミング教育の必要性が叫ばれているのでしょうか。また、現場ではどのように実践すれば良いのでしょうか。



QUESTION & ANSWER

私たちは普段、数多くのテクノロジーを利用して生活しています。中でも最近では、人工知能やIoT(Internet of Things)モノのインターネット)など、情報技術の進化は目覚ましいものがあります。このような背景の下、新学習指導要領では、小学校にプログラミング教育が導入されました。育成する資質・能力は、次の3つです。
〔知識・技能〕身近な生活で「コンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。
〔思考・判断・表現〕発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

〔学びに向かう力・人間性等〕
発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりを生かそうとする態度を涵養すること。
これらを総合的な学習の時間、算数科の図形学習、理科の電気学習等で育成します。総合的な学習の時間では、プログラミングに慣れ親しませ、身近な生活の中にある問題を解決する活動が考えられます。算数科では、プログラミングを活用し、さまざまな図形の描画を通して多角形概念を学ぶ活動が考えられます。理科では、電気の働きを社会や生活の中で活用する仕組みとして「コンピュータ

制御について学ぶ活動が考えられます。
これらの活動を通して児童は、情報技術の仕組みを理解し適切に活用するだけでなく、未来の社会づくりに向けて情報技術の在り方を考えたり、新たな発想での工夫・創造にチャレンジしたりする力を身に付けていくことができます。また、その中で問題解決に不可欠な論理的思考力や創造性を高めていくことが期待されます。
初歩のプログラミングは決して難しくありません。まずは、先生方がプログラミングを体験し、その面白さと奥深さを感じ取ることから始めてみましょう。

**難波教授に社務署から
感謝状が授与**

租税教育行政の円滑な運営への寄与、特に本学学生への租税教室の実施など、次代を担う大学生に対する租税教育の推進について多大な貢献があったとして、難波安彦教授(写真右側)に野村浩一社務署長から感謝状の授与と記念品が贈呈された。

